

もちろん、計算は筆算でします。暗算は「10の補数と九九」だけです。  
 筆算では次のような配置になります。  
 語呂合わせは同じで真ん中のお宝から右回りと覚えます。



$$\text{お宝} \div \text{人数} = \text{分け前} \dots \text{あまり}$$

$$6 \overline{) 54}$$

< 54 ÷ 6 > を計算します。

$$6 \overline{) 54} \begin{array}{l} | \\ | \end{array}$$

人数と同じ桁数のお宝の所に「命の縦線」を描きます。  
 縦線の左分だけと人数を比べてお宝を何個分けられるかを考えます。  
 この場合「人数 > お宝」なので分けられません。 0 書かない

$$6 \overline{) 54} \begin{array}{l} | \\ | \\ | \end{array}$$

次は「命の縦線」を一桁末日にずらして考えます。  
 縦線の左分だけと人数を比べてお宝を何個分けられるかを考えます。  
 この場合「人数 : お宝」 = 「人数 < お宝」 = 「6 : 54」なので分けられます。  
 分け前は「9」 余りを確認するために分けた分のお宝とお宝全部とを比較  
 するためにお宝全部の下に書いて引き算をする。これで残りが出る。

$$\begin{array}{r} 6 \overline{) 54} \begin{array}{l} | \\ | \\ | \end{array} \\ \underline{54} \\ 0 \end{array}$$

余り「0」なので計算はココまで。

筆算で計算した後に計算式を完成させる。  
 答えは 答え：9 と別を書く。

$$54 \div 6 = 9$$

答え：9